

2023

10.25 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN\\_0KKcrsQZT\\_ePSNM\\_N7YsRw](https://temdec-med-kyushu-u-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_0KKcrsQZT_ePSNM_N7YsRw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS &amp; TEMDEC

# 採集活動と採集林の未来

司会：田中 俊徳 准教授 (Q-AOS 研究推進コーディネーター)



Key Words

生業

植物利用

森林

採集活動

採集林

藤岡 悠一郎 准教授

比較社会文化研究院 環境変動部門

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科で地域研究の修士号および博士号を取得。修士課程より、アフリカのナミビアや南アフリカに位置する農村社会や地域の自然環境の変化に関する研究に取り組んできました。前職（東北大学学際科学フロンティア研究所）では、北極域研究推進プロジェクトに参加し、シベリアの永久凍土融解が地域社会に及ぼす影響について研究を実施してきました。2017年4月から、九州大学比較社会文化研究院で講師に着任しました。

日本列島の森林には、地域の住民が植物などの資源を採集する場として利用し、コミュニティによって維持されてきた林が各地に点在している。他方、日本では昭和30年代以降の生活様式の転換やその後の高度経済成長期のなかで採集活動は衰退し、このような植生は消失しつつある。しかしながら、採集は私たちが古代から営んできた活動であり、自然の恵みを得ることに喜びを感じ、季節のうつろいを体感する重要な活動ではないだろうか。本特集では、採集の場となった植生を“採集林”とよび、採集林をめぐる地域の取り組みや課題などを報告する。そして、日本における採集活動や採集林の将来について考えてみたい。